

一点目は、はたそめ団地は車両侵入を事前に察知すべく道路の一部をインターロッキングで整備し、車のスピードが出ないように敢えて直線道路にせず、みどりの緩衝帯や道路を蛇行させるなど安全思想に基づいた整備をしている。団地内は6.2mの幅員で整備され、車の往来に余裕を持たせるなど団地全体の安全性が担保されており、閑静な住宅地に大型車や多様な車両が通過したらこれらの安全思想が破壊される。

二点目は、団地を二分するこの路線計画は団地を分断し、同時に交通量を増大させ車両が深夜を問わず走行するため騒音問題などが発生する。

三点目は、日立市内からの接続は利便性が高まる一方、交通量と大型車両等により、子供たちが遊ぶ中央公園、はたそめ小学校、瑞竜中学校へ通う通学児童への危険性が更に高まる。

四点目は、はたそめ小学校や瑞竜中学校へ通う幅員が12mでは歩道・車道・自転車道の線引きが困難で必ず交通事故が発生する。また、はたそめ小学校から国道349号線への接続は朝・夕になると交通量が増大するが、市街地を結ぶこの道路は団地住民の生活専用道路でもある。

以上の観点から反対事由の一端を挙げましたが、私たちはこれらの意見や反対の意志を非常に重く受け止め、団地内を分断する市道0139号線（旧日立・笠間線）の道路整備には強く反対します。

本市は中山間部に位置する地勢から、少子高齢化や人口減少問題など特出すべき行政課題があり、極力、大型開発事業は抑えるべきです。さらに、これら行政課題の対処は、行政を担う市職員の行政処理能力の向上はもとより、市民の知恵と創意による市民協力が欠かせず、地域自治の高揚を柱とした市民協働のまちづくりの推進が不可欠であることを申し添え、ここに陳情書を提出いたします。